

## 「冬の星々 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今日は節分、暦の上では明日は立春であるが、季節はまだ冬である。冬は空気が澄んでいて、夜も長いので、天体観望にはいい季節である。私は晴れていれば毎晩、東京でも星空を見上げるようにしている。夜だけではない。私は毎朝 4 時 40 分に起きて、5 時半には家を出る。まだ暗い時間なので、駅まで行く途中に東の空を眺めると、惑星がよく見える。

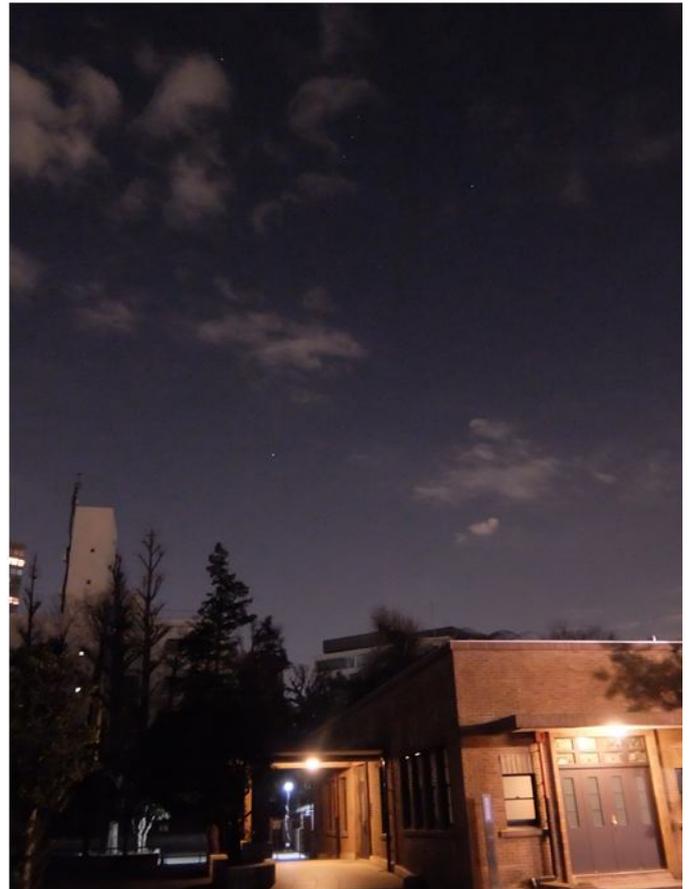


上写真は、門前仲町 (大横川) から見た黎明の惑星である。左下が金星、右上が土星。写真には見えないが、このずっと右上には赤い火星も見えた。金星の左下 (地平線下) には太陽があり、どの惑星も太陽の通り道 (黄道) に近い位置に見えることがわかる。右のマンションの左側の星は、さそり座のアンタレスである。冬でも、明け方には、夏の星座が昇ってくるのだ。

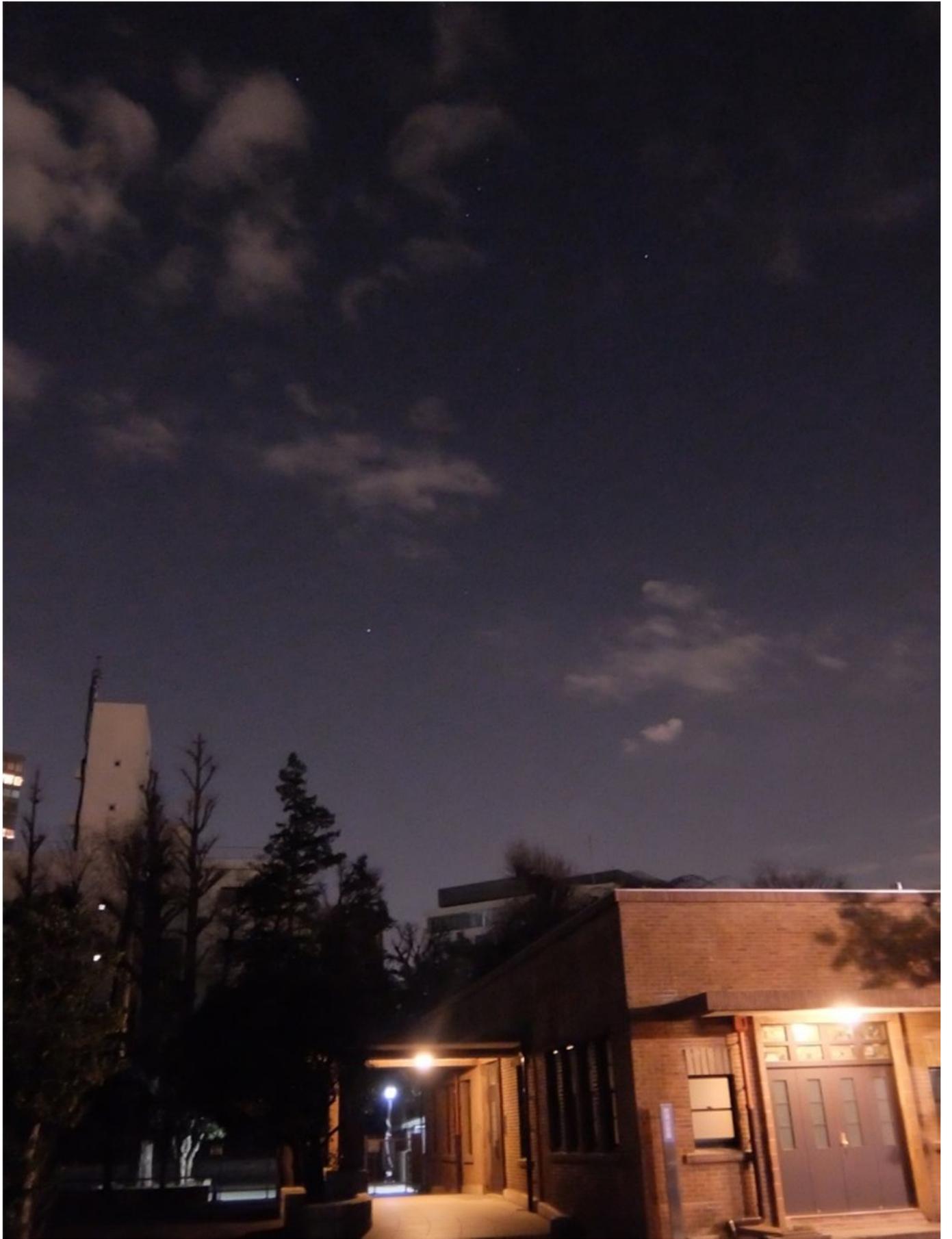
ちょっと前までは、こうした天体写真は、レンズ交換のできるデジタル一眼レフカメラで撮影していた。本体もレンズも重く、三脚も必要で、いつでも持ち歩けるようなカメラではなかった。しかし、最近買ったカメラ (富士フィルム XQ2) は、なかなかすばらしい。さまざまな撮影シーンに自動的に最適な設定を呼び出し、瞬時にシャッターを切れる。高速連写や動画撮影も可能。何よりもすごいのは、三脚ナシで、天体写真を撮影できることだ。



重さも約 200g と軽量なので、これなら通勤中でも常にカバンに入れて持ち運べる。まだ試していないが、手持ち撮影でも、オーロラ撮影が可能だろう。



これは、同じカメラで撮った冬の星座である (2ページ目に拡大写真)。中央左下の輝星がシリウス、右上にオリオン座が見える。建物は附属幼稚園である。普通の昼間の風景を撮る感覚で、天体写真を撮れるようになったのは、嬉しいことである。(つづく)



「シリウスとオリオン座」 C. Tanaka

2016, -2, -3 18:50

Fujifilm XQ2 全自動モード 三脚不使用

お茶の水女子大学構内